

【島根】全国でも少ない「地域ケア科」が内科全般をマネジメント-太田龍一・雲南市立病院地域ケア科部長に聞く◆Vol.1

10人体制で内科系の外来・入院・救急に対応

2024年12月6日（金）配信 m3.com地域版

島根県の中山間地域にある雲南市立病院には、全国でも少ないと思われる「地域ケア科」という診療科がある。2016年の開設から外来では総合診療を行い、入院医療と救急対応にも従事。現在、内科系の外来診療と入院医療を全て担当しており、重要な役割を担う診療科に成長した。離島での診療経験を生かし、地域ケア科の開設に携わった太田龍一部長にその特徴と成り立ちを聞いた。（2024年11月7日オンラインインタビュー、計3回連載の1回目）

▼第2回はこちら

▼第3回はこちら



太田龍一氏（本人提供）

地域ケア科の診療「イメージは総合内科」

——雲南市立病院には、全国でも少ないと思われる「地域ケア科」があります。ホームページによると、総合診療に加え、入院医療と在宅医療も行っているそうですね。

地域ケア科の役割は多岐にわたりますが、診療の面では一般的な病院でいう「総合内科」をイメージしてもらえれば理解しやすいかもしれません。外来診療と入院医療では地域ケア科が内科的な症状の患者さんを全て診ており、救急にも対応しています。現在は私を含めた総合診療の指導医3人と専攻医を合わせて10人ほどが在籍しており、病床281床のうち100人ほどいる内科系の入院患者さんも担当しています。「内科全般のマネジメント」を行っていることが特徴です。

在宅医療も診療科ができた2016年から行っており、開業医の先生方で対応が難しい患者さんを中心に訪問しています。例えば、神経難病や心不全の末期などで細かな管理を要する人や、がんなどの重い病気を抱えており病院から自宅に帰るのが難しい人です。基本的には退院してご自宅にお住まいの患者さんを対象に5、6人を毎週訪問しており、月換算では20～30人ほどを診ています。看取りを見据えて在宅に移行するケースが多く、現在は月に2、3人を看取っています。

——過去の記事によると、地域ケア科の開設と太田先生の入職が同じタイミングではないかと思いました。それぞれ、どんな経緯だったのでしょうか。

入職する2016年の前から病院とはつながりがあり、地域ケア科の立ち上げを一緒に構想してきました。雲南市立病院のことを知ったのは2015年ごろに参加した学会で、当時この病院に勤めていた保健師の方とワークショップでお話

ししたことがきっかけです。雲南市立病院にはまだ総合診療部門がなく、立ち上げを検討している状況であることを知り、参加を勧めてくれたんですね。

当時の私は新たな勤務地を探しており、総合診療の土台がこれからできあがっていく地域で活動したい思いがありました。私の志向と病院の方向性が合い、地域ケア科の開設と同時に診療科の部長に就任しました。

佐久総合病院や沖縄県立中部病院を参考に

——「地域ケア科」は、地域医療に注力する佐久総合病院（長野県）や太田先生が初期研修を受けた沖縄県立中部病院にあります。

私は2010年に大阪市立大学医学部を卒業後、沖縄県立中部病院で初期研修を含めて3年間研修を受け、その後の3年間、南大東島の診療所で所長を務めました。この離島で勤務していたころ、先ほどお話しした流れで雲南市立病院とつながりができ、現在の事業管理者で当時の院長だった大谷順先生がわざわざ南大東島まであいさつに来てくれ、病院の状況や展望を丁寧に教えてくださったのです。

それから大谷先生とディスカッションを重ねました。私はそれまでの経験を生かし、地域に出て医療従事者や患者さん、住民の方々と対話をして、地域ニーズを病院に組み入れる仕組みをつくりたい思いがありました。一方で、当時の病院にあった診療科ではこういった活動を推進するのは難しいと想像されたため、「新しく診療科を開設するのはどうでしょうか」と相談しながらプランを練りました。

名称を「地域ケア科」としたのは、沖縄県立中部病院と佐久総合病院を参考にさせていただきました。沖縄県立中部病院に地域ケア科ができたのは2010年であり、発起人は同院で感染症の診療や在宅医療などに取り組んでいる高山義浩先生です。高山先生は以前に佐久総合病院に勤めており、そちらの取り組みをモチーフとして沖縄県立中部病院で地域ケア科を立ち上げたと聞きます（『超急性期病院、「地域ケア科」設置のわけ - 高山義浩・沖縄県立中部病院地域ケア科医師に聞く◆Vol.2』を参照）。

私は沖縄県立中部病院に勤めていたころ、高山先生の訪問診療に同行させていただき、病院が在宅医療を行う意義や先生の親身な診療に感銘を受けました。そこで、これらの病院の活動を指針として「目指そう」と考え、同じ名前をつけたのです。

◆太田 龍一（おおた・りゅういち）氏

2010年大阪市立大学医学部卒。沖縄県立中部病院で研修を受けた後、南大東島の診療所の所長を3年務める。2016年より現職。日本内科学会総合内科専門医、日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医・指導医、日本専門医機構総合診療専門医・指導医など。

【取材・文＝医療ライター庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

